

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 28 日現在

機関番号：15301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25870832

研究課題名(和文) ケアの越境化と日本人高齢者の国際移動：マレーシア、タイ、フィリピンの事例から

研究課題名(英文) Transnationalization of Care and Japanese Retirement Migration: the cases of Malaysia, Thailand, and the Philippines

研究代表者

小野 真由美 (Ono, Mayumi)

岡山大学・グローバル・パートナーズ・講師

研究者番号：00609688

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本人高齢者(患者および要介護者)の国際移動に伴うケアの越境化を、マレーシア、タイ、フィリピンの事例から分析した。日本に比べて物価や気候面で利点のある海外に日本人高齢者が長期滞在・居住するライフスタイルの普及によって生じた、高齢者のケアを担う人々を移住先で必要とする側面、つまり「労働力を必要とする」人の国際移動であることに焦点を当て、医療や介護サービスを求める患者・消費者の越境化が、「若い」労働力が豊富であると同時に今後高齢化が進展する現地における高齢者医療や介護の産業化を促進することが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：This research illustrates that cross-border mobility of Japanese elderly and patients accelerates transnationalisation of care in Malaysia, Thailand, and the Philippines, facilitating care service for the elderly. Although Japanese retirement migration is mostly conducted by healthy retirees, it consequently has created a new stream of people seeking care abroad. This research reveals that the flow of Japanese retirement migrants generates a transnational mobility for care and therefore facilitates the healthcare industry of the receiving countries to develop elderly care service not only for foreigners but also for locals expecting future demand. It also demonstrates private hospitals which accept medical tourism and cater for international patients expand its service to include elderly care by associating with Japanese counterparts. Increase in transnational mobility of Japanese retirees therefore is an ongoing facilitating factor to transfer skills and service of elderly care.

研究分野：文化人類学・民俗学

 キーワード：ケアの越境化 国際退職移住 ロングステイ 医療(メディカル)ツーリズム 介護移住 マレーシア
タイ フィリピン

1. 研究開始当初の背景

日本人高齢者の国際退職移住は 1990 年代からみられる動向であるが、2000 年代に「団塊の世代」の人々が定年を迎え、新しい老後のライフスタイルとして関心が高まっている。なかでも、マレーシア、タイ、フィリピンは、日本人高齢者にとって主要な移住先となっている。日本に比べて物価や気候面で利点のあるこれらの国々は、退職者向けの受入制度を整備することにより、長期居住や滞在型余暇（ロングステイ）を目的とした就労を目的としない外国人を誘致している。さらに、医療（メディカル）ツーリズムの振興により、国外から治療目的で渡航する患者が増加している。当該地域では、季節移住や長期居住する日本人高齢者が増加しており、移住者の定住化により現地における医療や介護サービスのニーズが生じている。

2. 研究の目的

本研究は、日本人高齢者（患者および要介護者）の国際移動に伴うケアの越境化の進展に関して、マレーシア、タイ、フィリピンの事例から明らかにすることを目的としている。日本に比べて物価や気候面で利点のある海外に日本人高齢者が長期滞在・居住するライフスタイルの普及によって生じた、高齢者のケアを担う人々を移住先で必要とする側面、つまり「労働力を必要とする」人の国際移動であることに焦点を当て、医療や介護サービスを求める患者・消費者の越境化を生じさせる重層的構造を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究は、日本人高齢者（患者 / 要介護者）のケアを求めた国際移動に関して、マレーシア（クアラルンプール、ペナン）、タイ（バンコク、チェンマイ）、フィリピン（マニラ）を調査対象に設定し、以下の 3 点を研究内容としている。すなわち、1) 医療（メディカル）ツーリズムの政策的展開と制度化、2)

外国人患者・要介護者に対するケア（医療・介護）の産業化と消費、3) 患者・要介護者の脱領域化と家事・介護労働の越境的再編成の過程の解明、である。この 3 つの研究内容を明らかにするにあたり、以下の類型化（永住型、要介護者帯同型、国際結婚型）に基づき、調査を行う。さらに、国際移動に至る意思決定がどのように行われたのかについて高齢者（患者 / 要介護者）本人や家族への聞き取りから明らかにすることで、国際移動を発生させる要因をミクロなレベルから解明する。

4. 研究成果

(1) 日本人高齢者の当該地域への移住をめぐる潜在的・将来的な介護ニーズ

日本人高齢者の当該地域への移住は、60 代前後の退職者が主流であり、移住を決定する際に自らの介護を目的としてはいない。また、永住目的で移住を開始するものはごく少数であり、いずれは日本に帰国することを前提としている。フィリピンとタイでは、日本人高齢者の移住が発生した初期の段階から、現地および日本の介護事業者によって日本人向けの介護施設が開設されたが、数年後に閉鎖している。マレーシアでは、フィリピンとタイとは異なり、日本人高齢者のなかに永住と将来的な介護ニーズを念頭におく長期移住者が次第に増え、移住者自身が現地の医療者・介護事業者と協働し、日本人向けの介護施設を開設したが閉鎖した。マレーシア、タイ、フィリピンへの移住をめぐる潜在的・将来的な介護ニーズはあるといえるが、現状では介護目的の移住は主流となっていない。

(2) 日本人高齢者のコミュニティ形成とネットワーク化

日本人高齢者は、現地での長期滞在・移住生活を営む者同士の互助や親睦を目的としたコミュニティやネットワークを形成して

いる。上述のとおり、マレーシアの事例では、日本人退職移住者（ロングステイ・MM2H）のコミュニティが現地におけるケア（生活支援、ヘルスケア、介護）事業の立ち上げに主体的に関わっている。現地に移住し長期滞在する日本人高齢者の活動は、退職移住が増加した 2000 年代中ごろからはじまり、介護環境を自ら整備する様々な取組が実施されている。このようなマレーシアにおけるケアのコミュニティ・ネットワークの形成により、移住者のあいだで現地の医療や介護サービスに関する情報や知識の共有化が進展している状況が明らかとなった。また、タイやフィリピンの事例には見られない特徴であり、要介護者帯同型の移住がマレーシアで発生する一因となっていることが指摘できる。

(3) 医療・介護人材の国際移動

当該地域における各国の医療（メディカル）ツーリズムの政策的展開と医療・福祉の制度面での整備状況には差異がみられる。しかし、ASEAN 諸国では高度人材の国際移動が加速しており、当該地域の医療産業は、医療人材、患者、病院（医療ビジネス）の国境を越えた移動を操作することがますます重要となっている。ケアの越境化には、医療（メディカル）ツーリズムや患者の国際移動の媒介となるメディカルエージェントが介在しており、マレーシア、タイ、フィリピンと他の ASEAN 諸国、南アジア、日本を含む東アジア、および中東諸国との間に患者と医療者の相補関係が生じている。

(4) 現地における高齢者介護の産業化と日本型介護の「輸出」

マレーシアとタイの事例では、現地社会の高齢化への関心が高まりから、新たなニーズとなる外国人高齢者を対象に含む医療や介護サービスの事業化を促進する動きが、現地の民間病院や小規模なクリニックを営む医

療者にみられた。日本政府は医療を輸出産業とみなしており、ASEAN 諸国への医療サービスや介護産業の進出が開始している。

日本人高齢者、患者・要介護者の国際移動により、現地において新たなケアの産業化が促進され、高齢者の生活支援・デイケアサービス、医療・介護つきレジデンスの建設などが展開した。このように、国際退職移住、あるいは患者・要介護者の越境化は、現地の医療や介護サービスの変容を生じさせる一要因となっている。

(5) 家族関係の越境的再編成

タイの現地調査からは、高齢の日本人男性の国際結婚型（法的に婚姻関係のない事実婚の場合も含む）の退職移住の事例が観察された。現地の女性と結婚する場合、高齢の日本人男性は、要介護になった場合に現地で家族介護を受けることを念頭においている。長期滞在者や退職移住者の多くは、バンコクやチェンマイなどの大都市に居住しているが、国際結婚型の移住者は、結婚後に妻の地元である地方に居住する場合もある。このように、高齢の日本人男性の移住には、現地において妻の家族を巻き込んで家族関係を再編成することにより、自らの介護環境を整備していくさまが見てとれた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 7 件）

小野 真由美、東アジア型グローバル教養教育の現場から：岡山大学キャンパス・アジアプログラム事例報告、JAILA Journal、査読有、2 巻、2016、pp. 85-94

小野 真由美、マレーシアの医療ツーリズム、マレーシア研究、査読無、第 5 号、2016（forthcoming）、掲載箇所未定

Mayumi Ono, Commoditization of Lifestyle Migration: Japanese Retirees in Malaysia, Mobilities, 査読有, 10, 2015, pp. 609-627, DOI: 10.1080/17450101.2014.913868

Mayumi Ono, Descending from Japan: Lifestyle mobility of Japanese male youth to Thailand, *Asian Anthropology*, 査読有, 14(3), 2015, pp. 219-264, DOI: 10.1080/1683478X.2015.1117220

Mayumi Ono, Fleeing from Constraints: Japanese Retirement Migration in Malaysia, Pan-Japan: The International Journal of Japanese Diaspora, 査読有, 9 (1&2), 2013, pp. 57-90

Mayumi Ono, Emerging 'Look Malaysia' in Japanese Tourism-Related Mobility, JAMS Discussion Paper 2: An Evaluation of and Recommendation for the Look East Policy: Toward the 'Discovery of Japan's Second Wave', 査読無, 2013, pp. 31-36

小野 真由美, ツーリズムとしての海外ロングステイ: マレーシアの事例から、季刊 家計経済研究、査読有、99 巻、2013、pp. 43-51

〔学会発表〕(計 13 件)

小野 真由美, ロングステイ最近の動向、アジア・アラブ諸国における人の移動と医療・介護の展開: 文部科研「国際医療・介護交流に関する医学および社会科学・地域研究の視点からの学際研究」報告会、2016 年 2 月 20 日、「立教大学(東京都、豊島区)」

Mayumi Ono, Digital Storytelling and he Transnational Retirement Networks of Older Japanese Adults, Book Launch of Aging and the Digital Life Course, 2015 年 10 月 27 日、「Oxford (United Kingdom)」

小野 真由美, 世界をキャンパスに: 海外留学の魅力と展望、岡山大学大学院保健学研究科オープンフォーラム 2015「60 分授業・クォーター制導入により学びが変わる」, 2015 年 10 月 24 日、「岡山大学(岡山県、岡山市)」

小野 真由美 他、ハワイで暮らす・ハワイと暮らす、岡山大学公開講座まちなかキャンパス、2015 年 11 月 24 日、「イオンモール岡山未来ホール(岡山県、岡山市)」

小野 真由美, 老後の長期滞在ツーリズム: マレーシアの日本人高齢者、みんなよく公開講演会「いやし旅のウラ? 表? 現代アジアツーリズム考」, 2015 年 3 月 20 日、「毎日新聞社ビル・オーバルホール(大阪府、大阪市)」

小野 真由美 他、岡山大学キャンパス・アジアプログラムセッション「共通善の実現と東アジア型グローバル教養教育」, 日本国際教養学会第四回全国大会、2015 年 3 月 14 日、「岡山大学(岡山県、岡山市)」

Mayumi Ono, Lifestyle Migration from Japan to ASEAN Countries: Recent Trends and Their Implications, 40th Year of ASEAN-Japan Friendship and Cooperation, Chula-SUN Workshop, 2015 年 2 月 17 日、「Bangkok (Thailand)」

Mayumi Ono 他, Foreign-ness and Health Care in Malaysia, The 46th Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health (APACPH) Conference, 2014 年 10 月 18 日、「Kuala Lumpur (Malaysia)」

Mayumi Ono, Descending from Japan: Lifestyle Mobilities of Japanese Youth to Southeast Asia, The 14th International Conference of European Association of Japanese Studies, 2014 年 8 月 29 日、「Ljubljana (Slovenia)」

Mayumi Ono, Retirement Migration Facilitating Elderly Care Services: The Case of Malaysia and Thailand, International Symposium on Medical Tourism in Asia: Current Trends and Issues, 2014 年 7 月 18 日、「立教大学(東京都、豊島区)」

Mayumi Ono, Long-stay as a form of Japanese International Retirement Migration: Rethinking Mobility of Older Adults from a Comparative Cultural Perspective, The 18th World Congress of the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences, 2014 年 5 月 16 日、「幕張メッセ国際会議場(千葉、幕張)」

小野 真由美, インドネシア・タイ視察報告、多摩大学医療・介護ソリューション研究所研究成果報告会、2013 年 10 月 27 日、「多摩大学(東京、品川)」

Mayumi Ono, Lifestyle of the Elderly Japanese in Transition: International Retirement Migration from the Super Aged Society, The 17th World Congress of the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences, 2013 年 8 月 9 日、「Manchester (United Kingdom)」

〔図書〕(計 4 件)

Mayumi Ono 他, Berghahn Books, Reframing Diversity in the Anthropology of Japan, 2015, 265, pp. 55-74

Mayumi Ono 他, Berghahn Books, Aging and the Digital Life Course, 2015, 289, pp. 220-235

小野 真由美 他、丸善出版、世界民族百科事典、2014、789、pp. 345-346

小野 真由美 他、丸善出版社、人の移動辞典 日本からアジアへ・アジアから日本へ、2013、527、pp. 392-395

6 . 研究組織

(1)研究代表者

小野 真由美 (ONO, Mayumi)

岡山大学・グローバルパートナーズ・講師

研究者番号：00609688